

\*9月になって、少しは過ごしやすい気がします。皆様いかがお過ごしでしょうか？  
\*新内閣で小泉環境省が続投です。ライフサイクル思考の政策を推進してほしいと思います。

/// I N D E X ///

- ・メルマガニュース……………
- ISO14097(気候変動ファイナンス)と ISO14100(グリーンファイナンス)の動向
- ・海外通信…………… MIT の COVID19 対策
- ・編集後記…………… ババロッテイと清水エスパルス

■ ■ ニ ュ ー ス ■ ■

○気候変動ファイナンスとグリーンファイナンス

今まで、ISO14001:2015(環境マネジメントシステム; PDCA サイクルが良く知られています)や ISO14040:2006 と ISO14044:2006(ライフサイクルアセスメント)、ISO14067 : 2018(カーボンフットプリント)など環境に関する国際標準規格を発行してきた ISO/TC207 で金融関係の規格の発行作業が進んでいます。前回 (LCAF 通信 No.9) では、ISO14030(グリーンボンド)の進捗を解説しました。今回は、ISO14097(気候変動ファイナンス)と ISO14100(グリーンファイナンス)の活動を紹介します。

ISO14097(気候変動ファイナンス)は、「気候変動に関連する投資と融資活動の評価と報告のための枠組みと原則」の略称です。2016年にフランスの提案で始まりました。現在(2020年8月)DISの投票が行われており、2021年2月頃の発行が見込まれています。気候変動に関連する投資や金融活動に係る規格であり、エネルギー、自動車、鉄鋼など主要産業について投資する際に確認しなければならない事項が情報(informative)として記された付属文書(Annex)が付いています。

一方、ISO14100(グリーンファイナンス)は、「グリーンファイナンスの開発を支援するためのプロジェクト、資産、活動のための環境基準に係るガイダンス」で、中国の提案で2018年に始まりました。作業開始の投票では、上述のISO14097(気候変動ファイナンス)との違いが明確でないとして、日本は反対投票をしました。新しくできた TC322(サステイナブルファイナンス)との合同 WG として活動しています。WD(ワーキングドラフト)の段階にある現在の素案では、資金調達を求めるプロジェクト(新工場の設置など)、資産(Asset;ボイラーなどの企業の設備)、活動(Activity;新たな製品開発など)を検討する際に、考慮されるべき環境影響や性能に係る基準を特定するためのガイダンスを提供するものとされています。私がみるところ、資金を必要とする側と提供する側の情報の共有を重視している規格になっています。資金を必要とする側の情報公開の手段として、ISO14008:2019(環境影響と環境側面の貨幣評価)と 14007:2019(環境コスト及び便益の決定)が引用されているので、環境と財務情報の融合を目的の一つにしているのだと思います。また、プロジェクト、資産、活動のそれぞれについて、ベースラインからの削減ポテンシャルを算定することが推奨されています。これは、化学業界が WBCSD/ICCA の活動で先行している製品の削減貢献量の算定と共通するものと考えられます。

削減貢献量については、一昨年(2018年)3月に経済産業省が「温室効果ガス削減貢献量ガイドライン」を発行しました。また、2018年末の COP24 で経済産業省と経団連が「温室効果ガス削減貢献量」のサイドイベントを行いました。現在は製品の削減貢献量が主に行われていますが、企業全体を対象とした「組織の削減貢献量」の算定方法が、日本 LCA 学会の「環境負荷削減貢献量研究会」で議論されています。

ISO14097(気候変動ファイナンス)は金融側が開示する情報を重要視し、ISO14100(グリーンファイナンス)は、資金を必要とする側と提供する側の情報の共有を目指すことが少し異なりますが、情報開示に係わる考え方は共通していると思います。今後、それぞれの違いを明確にする作業が進められると思います。

[このニュースは GPN (グリーン購入ネットワーク) の会員専用ページに寄稿した「法政策、基準等からみる環境 –今、ISO の世界で議論されていること–」と一部重複していることをお断りしておきます]

## ■■ 海外通信 ■■

---

ボストンの MIT の先生から、新学期前の MIT の学生宿舎のコロナ対策についての情報が届きました。海外の大学の文書を見る機会は少ないので、以下に掲載します。

新学期が始まる 1 週間前を“Q-week.”として、全 671 名の寮生の全員検査を実施。1 名の陽性を確認。濃厚接触者を追跡中。みんなで注意して生活しよう！・・・・ ということですね。

To the MIT community,

Welcome to an unusual fall semester. We just wrapped up move-in weekend, and today is the first day of classes. Last Saturday and Sunday, 671 undergraduate students arrived, had their first on-campus COVID-19 test, and moved into their residences. Move-in was a success, thanks in large part to the tremendous efforts of more than 150 staff from the Division of Student Life and many other areas.

This weekend also marked the beginning of quarantine week, or “Q-week.” As you may know, after returning to campus and being immediately tested, students have been asked to quarantine for a full week. At the end of that week, they will be tested a second time. The first test determines if any of our students arrived as asymptomatic carriers of COVID-19. The second test will let us know if they contracted the virus while traveling back to campus.

Now that the weekend’s test results are back, we can report that one returning undergraduate student tested positive through our screening program. That student is currently self-isolating, MIT Medical has already conducted its contact tracing process, and the Division of Student Life is working to make sure the individual has the support and resources they need for the isolation period. As a reminder, if you were not directly contacted by MIT Medical, you can presume that you are not at risk from this positive case.

Whenever we learn that a member of our MIT community has contracted COVID-19, our first priority is their well-being and offering them care and support. It also serves as a sobering reminder that we must not let down our guard. It is critical that all students strictly adhere to the rules and regulations surrounding self-quarantine for the duration of Q-week. We know how much everyone misses each other, but as tempting as it is to meet for a quick coffee with a friend, that is exactly the type of interaction that has led to coronavirus outbreaks on campuses across the United States.

For now, everyone needs to remain extra cautious. Once Q-week ends, we will write again and share the results of our second round of testing.

Thank you, everyone, for doing your part to keep yourself and all members of our MIT community safe this semester.

And, finally, we would like to take a moment to speak directly to all our students to say welcome back to MIT. Whether you are here in person or virtually, we have missed you and are very glad to have you back.

Sincerely,  
Cexxx Sxxx, MD

## ■■ 編集後記 ■■

---

○2007年に亡くなったオペラ歌手ルチアーノ・ババロッティの映画が上映中になっています。ホセ・カレーラス、プラシド・ドミンゴと並んで世界3大テノールと言われた一人です。1990年の前後約1年ちょっとをウイーンで過ごすことができたので、この3大テノールを生で聞くことができたのはほんとうに幸せでした。それまで、アカペラで（時々スナックのカラオケで—当時はまだカラオケボックスがなかったと記憶します--）演歌ばかり歌っていた私を、オペラ好きにさせるのが、ウイーンという町の怖さですね。映画の予告編をパソコンで見ると、ババロッティがブッチーニのトーランドットの「誰も寝てはならぬ」を歌っています。荒川静香さんの2006年ト

リノオリンピックのイナバウワーの曲です。さて、映画を見に行きますか。。。思案中です。(早くカラオケで「長崎は今日も雨だった」を一人でコーラスもやりながら歌いたいです。。。)  
○ついに、清水エスパルスがダントツのビリになってしまいました。(サッカーの話です。)我が高校の後輩で最後の日本代表である内田篤人選手も引退してしまったので(ごめんなさい最後の日本代表は高原選手でした)、サッカー王国清水もついに終焉を迎えようとしています。でも、今年はいいんです。どんなに負けても降格がないし。。。私は、エスパルスの特徴は、無名の選手を育てて、他のチームに送り出すことだと思っています。若い人の育成、サポートですよ！ LCAFの趣旨と一緒にです！

私の興味だけで記事を書いています。感想をお送りください。  
(LCAF 理事長 稲葉 敦)

-----  
ご意見,ご感想,本メールマガジンの解除のご連絡はこちらまで  
[contact@lcaf.or.jp](mailto:contact@lcaf.or.jp)

-----  
一般社団法人 日本 LCA 推進機構  
Japan Life Cycle Assessment Facilitation Centre (LCAF)  
(エルカフと呼んで(読んで)ください)  
〒71-0014 東京都豊島区池袋 2-36-1  
インフィニティ池袋 8F52  
電子メール : [contact@lcaf.or.jp](mailto:contact@lcaf.or.jp)  
[URL:https://lcaf.or.jp/](https://lcaf.or.jp/)